

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



### 合田 直弘

例年より4か月遅れで9月5日に開催されたG1ケンタッキーダービー(d10F)に出走を予定しながら、前日に出走を取り消した「*マイツクザファイアース*(騙3)」が、今月のこのコラムの主役である。

同競走で圧倒的1番人気に推された「*マイズザロウ*(牡3)」が、1歳夏にサラトガの市場で11万ドル(当時のレートで約123.1万円)という、後の大活躍を考えれば超バーゲン価格で購買されていたことが話題となつたが、それよりも遥かに安い価格で取り引きされていたのが「*マイツクザファイアース*」だ。彼は当歳時に「*プライベート*」で売買されたのだが、価格はたつたの3千ドル(約34万円)であった。

低価格には、当然のことながら理由がある。

「*マイツクザファイアース*」は、生まれた時から左眼に先天性白内障を患っていたのである。

ペイジジュリアン・ブルースカイスティングルスが所有する繁殖牝馬「*サンクランツ*」が、預託されていたケンタッキー州のミレニアムアームズで、17年4月22日に出産したのが「*マイツクザファイアース*」だ。生まれてすぐに左眼の異常に気付いた牧場関係者に依頼され、駆けつけたハグヤード競走馬診療所のアーノルド・モンジュー獣医は、「当歳馬が大柄で骨量豊かな」と感銘したという。だが、先天性白内障

は残念ながら治療を施すことが出来ない疾病で、当歳馬はまもなく、ハグヤードで左眼球の摘出手術を受けることになり消した「*マイツクザファイアース*(騙3)」が、

JRAの規定だと、1眼を失明している馬は登録が認められないが、残った1眼が機能していれば新たに競走馬登録を行なうことが出来るのが北米である。例えば、19年12月にサンタアニタのG1マリブS(d7F)を制したハーデノットトウラヴァ(牡3)も、1歳の時に左眼を失つてしまつた馬だつた。

たとえ1眼でも、これだけ骨格の優れた馬なら、買ってくれる人がいるのではなかつたと考えた生産者は、「*マイツクザファイアース*」を当歳秋のセールに上場すべく、アースを当歳秋のセールに上場すべく、準備に入つた。だが、連絡をとつた複数のエージェントが口を揃えて「1眼では二の足を踏む」と答えたため、セール上場を断念。この時「自分が買いたい」と申し出たのが、初めて見た時に馬の良さに惚れた、ハグヤード診療所のモンジュー獣医だつた。生産者とモンジュー獣医との間で合意した譲渡価格が、3千ドルだつたのだ。

翌年の夏、モンジュー獣医から「見てもらいたい馬がいる」と連絡を受けたのが、獣医と旧知の間柄だつたレイ・ヘルナンデス調教師で、「*マイツクザファイアース*」の壮健な馬体を、彼もひと目で気に入った。ヘルナンデス師は、同馬の調教を引き受けることを快諾しただけでなく、「*マイツクザファイアース*」の権利の半分を買収することでも合意。ちなみにこの時の評価額は6千ドルで、ヘルナンデス師は3千ドルを投じて、同馬の共同馬主となつた。

19年6月14日インディアナグランドで行われたメイドン(d5F)に出走した同馬は、ここを1.1/4馬身差で快勝。見事にデビューウィンを果たしている。

その後ひと息入れ、5か月ぶりの出走となつた条件戦(d6.5F)は4着に敗れたものの、次走は果敢に重賞競走に挑戦。チャーチルダウンズのG2ケンタッキーダービー(d8.5F)に騎を進めた「*マイツクザファイアース*」は、勝ち馬に3/4馬身差の2着に健闘したのである。ちなみにこの時、彼に頭差先着を許す3着に敗れていたのは、「*マイズザロウ*」だつた。

その後は重賞競走で、勝ち切れなかつたものの、フエアグラウンズのG3ルコントS(d8.5F)4着、オークローンパークのG1アーカンソーダービー(d9F)3着などの成績をあげて、「*マイツクザファイアース*」はケンタッキーダービーの出走権を得たのだ。

隻眼というハンデを乗り越えて、ケンタッキーダービーという晴れ舞台に立つという夢こそかなわなかつたが、「*マイツクザファイアース*」の今後の活躍に期待したい。

Keiba Global Front Line